

中学部 第2学年 指導案

令和3年10月14日（木）5校時
サンホセ校 中学部2年3名
指導者 田原 慶人
アグアス校 中学部2年4名
指導者 上野 健太

1 教科 単元名

国語「立場を尊重して話し合おう」

2 単元の目標 評価の観点

- ・説得力のある根拠と共に、自らの意見をまとめることができる。〔知識及び技能〕(2)ア
- ・「救急車の利用を有料にすべきである」というテーマについて、異なる立場や考えを想定しながら集めた情報を整理し、伝え合う内容を検討することができる。（思考力、判断力、表現力）A(1)ア
- ・互いの立場や考えを尊重し、共通点や相違点、論点を踏まえながら話し合い、結論やまとめを導くために、考えをまとめることができる。（思考力、判断力、表現力）A(1)オ
- ・自らの考えを討論で発言したり、異なる立場の友達の意見に耳を傾けたりしながら、学習課題に沿って自らの考えを広げたり深めたりしようとしている。（主体的に学習に取り組む態度）

3 指導観

(1) 教材観

今回の単元で指導する内容は、以下のとおりである。

- ・〔知識及び技能〕 (2) 情報の扱い方に関する事項
ア 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解すること。
- ・〔思考力、判断力、表現力等〕 A話すこと・聞くこと(1)話すこと・聞くことに関する事項
ア 目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、異なる立場や考えを想定しながら集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討すること。
オ 互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめること。

上記の内容について、A話すこと・聞くことの(2)言語活動例イ「それぞれの立場から考えを伝えるなどして、議論や討論をする活動。」を通して指導することを目指している。

(2) 児童・生徒の実態

- ・アグアスカリエンテス日本人学校とサンホセ日本人学校の合同授業である。人数は、アグアスカリエンテス日本人学校4名、サンホセ日本人学校3名である。どちらの学校にも、ダブルの生徒が在籍している。
- ・中学1年生では、「話題や展開を捉えて話し合おう」というグループディスカッションの学習をした。日常生活の中の話題について、少人数で話し合い、話題や展開を捉えることや互いの発言を結び付けて考えをまとめることがねらいであった。今回の学習では、話題が社会生活になることや話し合いに参加する人数が多くなることなどから、中学1年生の学習に加えて、根拠の客観性や互いの立場を尊重することが求められることになる。具体的には、「異なる立場を想定する」「互いの立場や考えを尊重する」力を身に付けることが今回のねらいとなっている。
- ・事前調査の結果（全7名）

1 話し合いは好きか	1 好き 3名(43%)	2 まあまあ 4名(57%)	3 あまり 0名(0%)	4 嫌い 0名(0%)
2 話し合いは得意か	1 得意 0名(0%)	2 まあまあ 3名(43%)	3 あまり 4名(57%)	4 苦手 0名(0%)
3 話し合いで大切なこと	態度面に対する回答が多い。中には、「相手の意見を最後まで聞く」など、立場や考えを尊重して聞くことにつながる回答も見られる。			
4 話し合いをするとしたら	話題についてインターネット等で情報収集をするという回答が多い。「異なる立場を想定する」ことに対する言及はなし。			
5 相手が反対してきたら	「ずっと反論し続ける」という回答がある一方、「なぜ相手がそのような考えたのかを知る。」など、立場や考えを尊重して聞くことにつながる回答も見られ			

	る。
6 同じ根拠を用いた賛成・反対	「〔討論〕異なる立場から考える」の内容。スマートフォンに賛成・反対という理由において、インターネットに接続できるという根拠を使っている生徒は少ない。

4 指導計画（全5時間）

次	時	主な学習内容	評価基準（観点，方法）	学習形態
0	0	0 アイスブレイク ・ p.112「聞き上手になろう」に取り組む。		
1	1	I 単元と出会い，学習活動への見通しをもつ。 ・ T1とT2の討論やノート，討論メモを見せ，よいところを探させる。「異なる立場や考えを想定する」「互いの立場や考えを尊重する」という今回の学習内容を意識させる。 ・ 「〔討論〕異なる立場から考える」を読み，同じ事実でも賛成の立場と反対の立場では，扱い方が変わることを理解する。 ・ 学習を振り返る。 ・ 生徒の話合いテーマ「救急車の利用を有料にすべきである」を知らせる。		
2	2	II 異なる立場を想定しながら情報を整理し，互いの立場を尊重しながら討論をする。 ・ 救急車の利用の問題点に関するビデオを見る。 ・ 「救急車の利用を有料にすべきである」というテーマについて，情報を集める。 ※教師側でも情報を準備しておく。 ・ 学習を振り返る。		
	3 (本時)	・ 立場を決めて，考えをまとめる。 ※人数の偏りがある場合は，均等になるように調整する。 ・ 異なる立場の人の考えを予想し，それに対する答えをまとめる。 ・ 学習を振り返る。	・ 学習の見通しをもちながら，情報を集めている。（主体的に学習に取り組む態度，ノート）	直接合同
	4	・ 司会1名，賛成，反対に分かれて討論をする。 ・ テーマを確認し，1人ずつ意見を述べる。 ・ それぞれの立場を意識し，共通点や相違点，論点を踏まえながら討論する。 ・ 討論の際は，討論メモを書きながら聞く。 ・ 個々にまとめの発言をし，司会が結論をまとめる。 ・ 学習を振り返る。	・ 説得力のある根拠と共に意見をまとめている。（知・技，ノート）	直接合同
3	5	III 討論を振り返り，自らの学びを実感する。 ・ 討論の様子をビデオを基に自分や友達の発言内容や態度を振り返ることによって，お互いの立場を尊重した話合いになったかどうかを問い直す。 ・ 討論の前の考えと，討論の後の考えを比較しながら，自分の考えの変化を振り返る。 ・ 自分の考えの深まりや広がりを伝え合う。 ・ 単元の学びを振り返る。 事前アンケートを見て，自らの成長を実感する。		
		・ 学習課題に沿って自らの考えを広げたり深めたりしようとしている。（主体的に学習に取り組む態度，ノート）		直接合同

5 本時

(1) 目標

- ・テーマについて、自分の立場を決め、異なる立場や考えを想定しながら集めた情報を整理し、伝える内容を検討することができる。

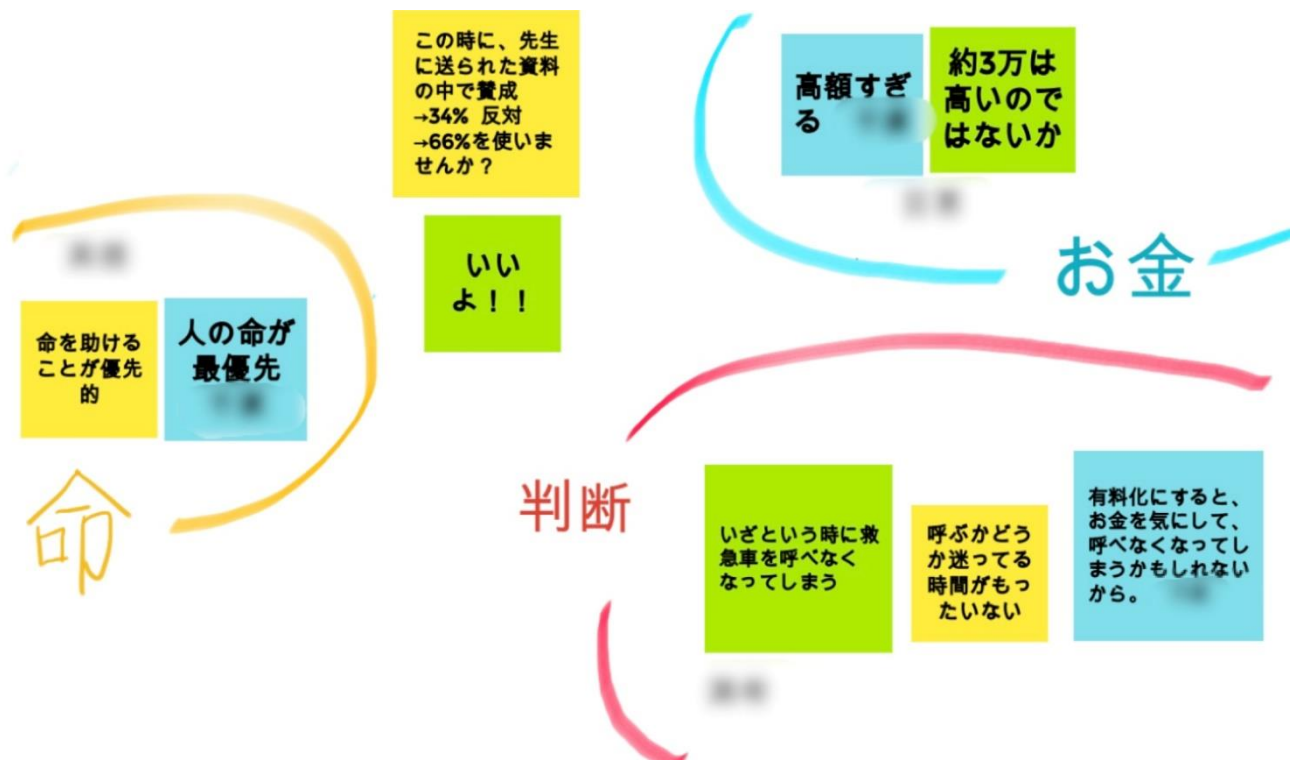
(2) 指導の経過

段階	時間	教師の活動（発問・指導の工夫）児童・生徒の反応	児童・生徒の学習活動	資料等
導入		C 前は情報を集めた。 C 有料化をするしない、どちらにも、メリットデメリットがあった。 ○単元の1時間目を振り返らせる。	1 前時の学習内容を振り返り、単元の学習内容を確認する。 2 本時の学習内容を確認する。	
		自らの立場を決めて、異なる立場や考えを想定しながら伝える内容をまとめよう。		
展開		○立場が偏っている場合は、学習の趣旨を説明し、立場を移動できる生徒を募集する。 ○賛成派と反対派に分かれて様子を見たり、支援したりする。 ○必要な根拠があれば、調べてもよいことを告げる。 ○全員を集合させ、進捗を確認し、課題の達成度をまとめる。	3 立場を決める。 4 伝える内容をまとめる。 ・賛成派・反対派に分かれ（ブレイクアウト+Googleジャムボード）、根拠を列挙した後に分担する。 ・討論において、誰がどの意見を言うのかを確認する。 5 異なる立場や考えを想定する。 6 学習をまとめる。	
		異なる立場や考えを想定しながら意見をまとめることができた。		
まとめ		○次時の確認をする。 ジャムボードは常時開放しているので、オンラインで討論の時までにやりとりしてもよいことを伝える。 C 同じ立場の友達と根拠を集めることができた。	7 見通しをもつ。 8 学習を振り返る。	

(3) 板書計画

日付	単元名	課題	立場	活動の概略	まとめ

(4) 児童・生徒の様子



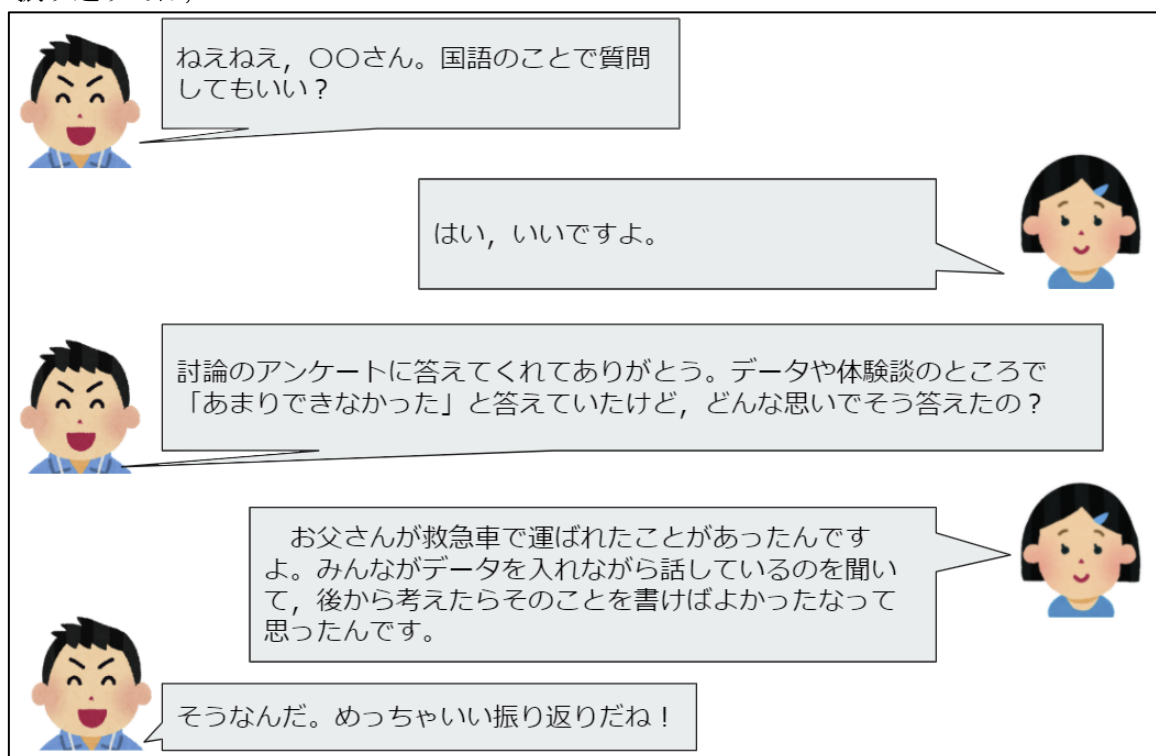
KJ法のように、

- ・意見を出し合う、
- ・意見を分類する、
- ・役割分担をする、
- ・反論を考える、

ことについて、生徒が主体となって進めていた。よって、主体的・対話的な学びだったということができると考える。

(5) 児童・生徒の振り返り

単元末の振り返りでは、



のように、自らの言語活動を振り返りながら成果や課題を実感している児童の姿が見られた。言葉による見方・考え方である「児童（生徒）が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること」を働かせていると判断できる。よって、深い学びだったということができると考える。

① 成果

- ・ 単元のはじめに、T 1 と T 2 の討論及び討論に向けて作成したノートを見せ、「異なる立場を想定する」「互いの立場や考えを尊重する」ことの大切さを実感させることができた。
- ・ 教材「〔討論〕異なる立場から考える」において、同じ事実を二つの異なる立場の人がどのように捉えるか考える時間や、考えたことを話し合う時間を保障し、同じ事実でも立場によって考えが違うことに気付かせることができた。
- ・ 教材「立場を尊重して話し合おう」において、自分の考えをまとめた後に「〔討論〕異なる立場から考える」の学習を振り返らせた。それに加えて、異なる立場の人の考えを予想する時間を保障したことで、異なる立場を想定することができた。
- ・ 教材「立場を尊重して話し合おう」において、討論の最後に、一人ずつまとめの発言をする場を設定した。教科書の例を参照にしながら、お互いの立場を尊重する話し方について学んだことで、互いの立場や考えを尊重することができた。
- ・ 討論の前に救急車の利用の問題点についてのビデオを見せたり、資料をあらかじめ用意しておいたりすることで、救急車の利用の現状についてあまり知らない生徒も興味を持つことができた。
- ・ 遠隔合同授業にすることにより、普段より多人数での話し合いになるので、主体的に取り組むことができた。
- ・ ルーブリックにより、学習（討論）のゴールが「自分の考えの幅を広げる」ことを常に意識させることで、同じ立場の友達や違う立場の友達の発言に耳を傾け、共通点や相違点、論点を踏まえながら話すことができた。
- ・ 討論のメモを例示したり、討論のおわりに一人ずつまとめの発言をする機会を設定したりすることによって、自分の考えの変化をまとめることができた。
- ・ 遠隔合同授業にすることにより、普段より多人数での話し合いになるので、多くの考えに触れることができた。
- ・ 討論の前の考え（3時間目）と、討論の後の考え（5時間目）を比較させながら振り返らせることによって、生徒は討論することによって自分の考えが変化したことを実感することができた。
- ・ 討論の様子を撮影し、そのビデオを基に自分や友達の発言内容や態度を振り返ることによって、お互いの立場を尊重した話し合いになったかどうかを問い直すことができた。
- ・ 遠隔合同授業では、考えの広がりや深まり、よさのモデルの多さという点に期待をしていた。普段は学べない友達と学ぶことが、自らの学びを振り返るきっかけになっていた。

② 課題

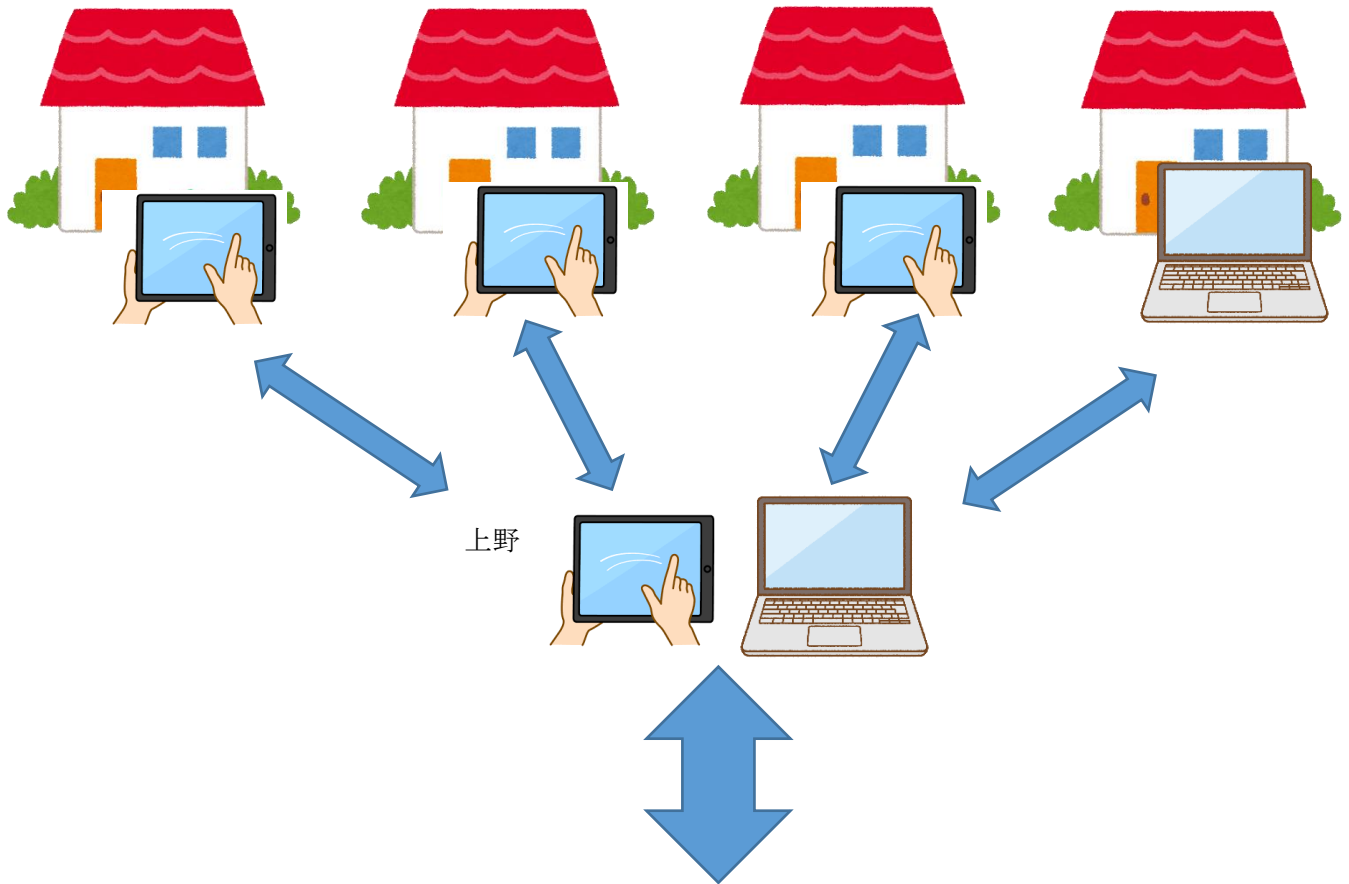
- ・ 支援が必要な児童生徒について、担任同士で事前に情報交換したり支援の方法を検討したりする場を設けるとよかった。

③ 提案（今後のオンライン合同授業での活用案・他の日本人学校や日本の学校での実践に生かして欲しいこと。）

- ・ 支援が必要な児童生徒について、担任同士で事前に情報交換したり支援の方法を検討したりする場を設けるとよい。

(6) 教室レイアウト (ICT機器の配置)

アグアス



サンホセ校

